

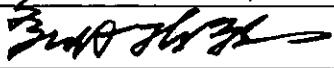
## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和 6 年 6 月 17 日

報告番号 甲	第 528 号	氏名	坂本祐史
審査員		主査(自署)	小池春樹
		副査(自署)	森本忠尚
		副査(自署)	浅見豊子
論文題名	<p>題名 Immediate Effects, Detailed Clinical Outcomes and Prognostic Factors of Chemonucleolysis Using Condoliase for Lumbar Disc Herniation</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Neurologia medico-chirurgica - in press</p>		
論文審査結果の要旨	<p>腰椎椎間板ヘルニア(LDH)に対するコンドリアーゼ注入療法は、椎間板内の保水量を減少させることで内圧を下げ、神経根の圧迫を軽減することで症状を緩和させる治療である。今回我々は治療後翌日、1ヶ月後、3ヶ月後の下肢痛NRSを測定し、ベースラインから3.5以上の改善を得られたものをI群、3.5未満をN群として予後予測因子を測定した。2020年4月から2023年3月までに治療を受けた患者のうち、合計225人が研究に含まれた。平均年齢は46.5±16.5歳で、男性が151人、平均病期は6.2±8.52ヶ月であった。翌日時点で60例、手術後1か月には118例、手術後3か月には152例が改善群に分類された。治療前の病期は、治療後1ヶ月(8.19±8.74[I群] vs 5.17±8.04[N群])および3ヶ月(8.51[I群]±7.35 vs 5.69±8.87[N群])と改善群で有意に短かった。下肢痛NRSの比較の結果、治療翌日(6.02±2.64[I群] vs 7.50±1.79[N群])、1か月後(5.13±2.69[I群] vs 7.58±1.66[N群])、3か月後(4.42±2.70[I群] vs 7.34±1.77[N群])でI群で下肢痛NRSに差がみられた。</p> <p>以上の成績は、LDHに対するコンドリアーゼ注入療法が治療翌日から症状を改善し、手術を避けるための侵襲が少ない治療法となり得ることを示しており、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	( <input checked="" type="radio"/> ) 不合格	最終試験の結果	( <input checked="" type="radio"/> ) 不合格
論文審査日	令和 6 年 6 月 17 日	最終試験日	令和 6 年 6 月 17 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和 6年 6月 3日

報告番号 甲	第529号	氏名	白濱 裕梨
審査員		主査(自署)	
		副査(自署)	
		副査(自署)	
論文題名	<p>題名 Cluster analysis defines four groups of Japanese patients with adult-onset Still's disease</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Modern Rheumatology, in press.</p>		
論文審査結果の要旨	<p>成人発症型成人 still 病 (AOSD) は不均一な疾患で、重症度や長期予後は様々である。AOSD は従来、短周期型、慢性型、多周期型に分類されていたが、近年の研究で予後因子や病態について様々な知見が明らかにされており改めて新しい分類が必要とされている。</p> <p>著者らは、後ろ向きコホート研究を実施し、153 名の AOSD 患者群に対して年齢、性別、臨床的特徴、検査所見を用いたクラスター分類を実施した。主要評価項目は生存率と無治療寛解率とした。その結果、以下の 4 つのクラスターに分類された。</p> <p>クラスター 1：若年、女性、合併症が少ない、フェリチン値が中程度</p> <p>クラスター 2：若年発症、合併症が多い、フェリチン値が高い</p> <p>クラスター 3：若年発症、男性、リンパ節腫脹なし、合併症が少ない</p> <p>クラスター 4：高齢発症、女性、合併症が多い、フェリチンが高い</p> <p>生存率はクラスター 4 で低い傾向があり (<math>p=0.0539</math>)、薬剤治療なし寛解率はクラスター 1、2、3 で高かった (HR (VS クラスター 4) : 2.19, 3.37, 3.62)。</p> <p>以上より、年齢、性別、臨床症状、フェリチン値、重症度、無治療寛解率による AOSD の 4 つのグループの特徴が特定され、クラスター 4 が最も薬剤治療なし寛解率が低いことが明らかになった。</p> <p>以上の結果は、AOSD の臨床分類に新たな知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査委員より専門的な観点から論文内容及び、これに関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって審議員合議のうえ、大学院医学研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	令和 6年 6月 3日	最終試験日	令和 6年 6月 3日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和6年8月27日

報告番号 甲	第530号	氏名	室屋和子		
審査員	主査(自署) 山田小絵				
	副査(自署) 古賀明美				
	副査(自署) 藤野成美				
論文題名	<p>題名 Factors Contributing to Well-Being in Japanese Community-Dwelling Older Adults Who Experienced Spousal Bereavement (日本の地域在住高齢者における配偶者との死別後の精神的健康と影響要因)</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Research in Gerontological Nursing, Vol. 17, No. 3, pp121-130, 2024</p>				
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、配偶者との死別を経験した地域在住高齢者の精神的健康の影響要因を活動や役割の侧面から明らかにしたものである。</p> <p>研究方法については、老年期に配偶者と死別した高齢者332名を対象として、無記名自記式質問紙調査を実施し、精神的健康度を評価する尺度としてWHO-5(Well-being Index)及びPGC-MS(Philadelphia Geriatric Morale Scale)を従属変数、個人属性(年齢・性別・家族構成・居住地・日常生活自立度等)、死別に関する情報(配偶者の介護状況や死因、死別の期間等)、趣味や活動を独立変数としてデータ解析をしている。</p> <p>結果として、死別後の精神的健康に影響する要因は、性別、外出(他者の手助けを必要としない)、死別後期間、趣味、生活・人生志向の対処方略であった。</p> <p>以上の結果は、配偶者との死別後の高齢者が悲嘆のプロセスを経て心理的に回復し健康で幸福な余生を送るための対処行動及び周囲のサポートを検討するうえで有益であり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より、専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について、種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不合格	最終試験の結果	合格	不合格
論文審査日	令和6年8月27日		最終試験日	令和6年8月27日	
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。				

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和 6年 8月 6日

報告番号 甲	第 531 号	氏名	兼田 浩平
審査員	主査(自署)	(右)の(左)	
	副査(自署)	右(左) 浩平	
	副査(自署)	左(右) 浩平	
論文題名	<p>題名 Prevalence and temporal trends of prostate diseases among inpatients with cardiovascular disease: a nationwide real-world database survey in Japan</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Front Cardiovasc Med. 2023 Oct 19:10:1236144. doi: 10.3389/fcvm.2023.1236144.</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、代表的な泌尿器科疾患である前立腺肥大症と前立腺癌が加齢と共に増加し、メタボリックシンドロームや生活習慣病と関連することに着目し、本邦における前立腺疾患と循環器疾患の関連について、疫学的実態を調査し報告している。</p> <p>循環器疾患による入院患者を対象としたデータベースである JROAD-DPC に 2012 ~2019 年度までに登録された全男性約 608 万例に対して前立腺肥大症、前立腺癌の有病率及びその経年的推移を調査した結果、前立腺疾患の有病率は 5.8% (前立腺肥大症: 4.4%, 癌 1.6%) で、特に後期高齢者では 9.9% と高率となり、経年に緩やかに増加傾向を示した。さらに、前立腺疾患の有病率は、急性冠症候群やその他の心血管疾患が契機での入院集団 (4.5%) よりも、心不全が契機での入院集団 (8.6%) で高率であった (<math>P &lt; 0.001</math>)。</p> <p>以上の結果は、循環器内科医だけでなく一般臨床医に、心血管疾患と前立腺疾患のリスクが共通しており、潜在的な関連性がある事を認識させる大変重要な知見であると考えられる。特に、心不全が前立腺疾患患者において高率に発症し、予後に影響を与える合併症である点は新たな知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。さらには、前立腺肥大に対する治療薬である <math>\alpha</math> 遮断薬や前立腺癌に対する抗アンドロゲン薬は、心代謝状態に悪影響を与え、心血管合併症リスクを増大させる可能性があるため、今後の臨床課題となりうる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	令和 6年 8月 6日	最終試験日	令和 6年 8月 6日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

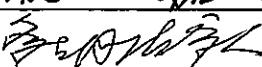
## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和6年8月21日

報告番号 甲	第532号	氏名	江藤 真美子
審査員		主査(自署)	市場 正良
		副査(自署)	山田 小絵
		副査(自署)	松本 由紀子
論文題名	<p>題名 Associations of eHealth Literacy with Social Activity Among Community-Dwelling Older Adults: A Cross-Sectional Study</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 European Journal of Investigation in Health, Psychology and Education, 14(5), 1279- 1294, 2024</p>		
論文審査結果の要旨	<p>高齢社会を支えるために多くのデジタル技術が不可欠になるが、利用する側の高齢者には、デジタル化への適応力や適切に健康情報を検索し、評価し、活用していく能力、すなわち eヘルスリテラシー (eHL) が必要となる。eHLに関する多くの研究では、eヘルスリテラシースケール (eHEALS、8 項目の質問票) 尺度を使い、若年者の健康行動との関係が調べられている。高齢者において社会活動は、身体機能、認知機能や死亡率の低下に貢献すると考えられるが、高齢者の eHL と社会活動の関連性を調査した研究はまだない。そこで、本研究では、eHEALS と社会活動(文化・地域・スポーツ活動)、健康行動(食事、喫煙など)、健康状態(日常生活動作、肥満、フレイル等)との関連を検討した。</p> <p>対象は、佐賀県 M 町の高齢者向け健康教室の参加者、65 歳から 99 歳の 561 人とした質問票による横断研究である。</p> <p>eHEALS の平均は 12.4 点 (SD 8.2、40 点満点) で、過半数が最も低いスコア 8 点という結果だった。男性は女性より高得点であった。eHEALS と社会活動との関連では、少なくとも週に1回は文化活動、地域活動に参加することが、eHEALS と有意な関係であり、スポーツ活動は有意でなかった(性、年齢補正後)。健康状態では、日常生活動作スコアが高いこと有意な関係であった。文化や地域活動に全く参加しないことは、最も低いレベルの eHEALS を持つことを示していた。</p> <p>今研究は高齢者の eHEALS が地域活動や文化活動に関連していることを示した初めての研究であるが、横断的研究であるため、eHL と各因子との因果関係は不明である。今後は、縦断研究で因果関係を考察していく必要がある。</p> <p>以上の成績は、高齢者における eHL の重要性について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	令和6年8月21日	最終試験日	令和6年8月21日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和 6年 8月 21日

報告番号 甲	第533号	氏名	鹿島 裕
審査員		主査(自署)	坂口 嘉郎
		副査(自署)	
		副査(自署)	宮園 素門
論文題名	<p>題名 The Relationship Between Acute-Phase Circuit Occlusion and Blood Calcium Concentration in an Ex Vivo Continuous Renal Replacement Therapy Model</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Cureus 2024;16(4):e59330. (doi:10.7759/cureus.59330)</p>		
論文審査結果の要旨	<p>持続腎代替療法(CRRT)において、回路や血液濾過器の予期せぬ早期閉塞をしばしば経験する。申請者らは、クエン酸加ウシ全血にカルシウムを注入する ex vivo 回路閉塞モデルを作成することにより、回路内閉塞を予測する方法の開発を企図した。</p> <p>方法として、ウシ全血を循環させながら、回路へ 1mEq/mL の塩化カルシウムを 0、2、3、4 mL/h の速度で持続注入して、回路閉塞時間、および回路内圧力の経時的変化を調べた。</p> <p>結果として、塩化カルシウム 0 mL/h 投与群では 360 分間で閉塞しなかったが、2、3、4 mL/h 投与群では投与速度が大きいほど有意に早く閉塞した。脱血圧、濾過器入口圧、返血圧の 3箇所で回路内圧を測定したが、閉塞に至る 4 分ほど前より濾過器入口圧と返血圧は徐々に上昇し、閉塞 1 分前から急速に上昇して閉塞した。流量 4 mL/h では、4 分前と閉塞時、4 分前と 1 分前、1 分前と閉塞時の間で、濾過器入口圧と返血圧に有意な差が見られた(<math>p&lt;0.05</math>)。</p> <p>申請者らが開発したモデルでは、回路内の 3 箇所の測定点における圧力の変化に基づいて、閉塞部位と閉塞時間を推定することができた。このモデルは、任意に設定できる閉塞時間に応じて、さまざまな実験システムを構築するために利用可能であると考えられた。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="checkbox"/> 不合格 <input type="checkbox"/>	最終試験の結果	合格 <input checked="" type="checkbox"/> 不合格 <input type="checkbox"/>
論文審査日	令和 6年 8月 21日	最終試験日	令和 6年 8月 21日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和 6 年 5 月 29 日

報告番号 甲	第 534 号	氏名	川崎 佳奈子
審査員		主査(自署)	杉山庸一郎
		副査(自署)	木村晋也
		副査(自署)	吉田裕哉
論文題名	<p>題名 Chemoradiotherapy and Lymph Node Metastasis Affect Dendritic Cell Infiltration and Maturation in Regional Lymph Nodes of Laryngeal Cancer</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 International Journal of Molecular Sciences, 25巻, 2093, 2024年</p>		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は喉頭癌の摘出組織のリンパ節における樹状細胞の浸潤について免疫組織化学により評価し、予後、術前の放射線治療による影響等について検討している。未熟および成熟樹状細胞のマーカーである S100 陽性樹状細胞は原発巣および転移リンパ節に比べて非転移リンパ節のほうが有意に多かった。放射線療法後の患者においては、原発巣および転移リンパ節での樹状細胞浸潤が減少していたが、非転移リンパ節については樹状細胞浸潤が増加していた。</p> <p>これらの結果から、原発巣および転移リンパ節においては、樹状細胞の成熟を阻害する機構が存在する可能性があることが示唆された。また、放射線治療は樹状細胞の誘導に影響を及ぼしている可能性がある。</p> <p>以上の結果は、喉頭癌の癌微小環境における樹状細胞の組織学的特徴に新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	最終試験の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	令和 6 年 5 月 29 日	最終試験日	令和 6 年 5 月 29 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和6年11月28日

報告番号 甲	第535号	氏名	佐久本 孟寿
審査員	主査(自署) 宇田 浩樹		
	副査(自署) 吉田 裕樹		
	副査(自署) 佐藤 修介		
論文題名	<p>題名 Novel cell spheroid culture method using Medaka dried fish powder メダカ乾燥魚粉を用いた新規スフェロイド培養法</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 HELIYON, Volume 10, Issue 19, 15 October 2024</p>		
論文審査結果の要旨	<p>将来の地球規模での食糧不足に対応するために、現在食品分野では培養肉や培養野菜といった、培養食料開発研究が盛んに行われており、その基本技術が「スフェロイド培養」である。医学研究分野でも使用されている通常の平面培養技術とは異なり、立体の細胞塊を作成する3次元培養技術であり、細胞の足場となる「培養担体」が必要であるが、現在のところ利用できる素材は少ない。本研究課題では、動物細胞の培養条件である37°C環境で融解の起こらない「乾燥魚類」に着目し、特に乾燥メダカ粉末が培養担体につかってスフェロイドが形成されるか、更に形成されたスフェロイドが医学研究に応用できないか検討することにした。</p> <p>最初にメダカを乾燥し粉碎した担体(DFP)の形態学的特徴を電子顕微鏡で観察したところ、筋肉や真皮組織の構造が維持されていることが確認できた。組成を分析すると70%はタンパク質、14%が灰分(ミネラル・電解質)、4%が脂質であった。次にメダカDFPを用いてヒト表皮細胞株(HaCaT細胞)を培養してみたところ、DFPありではDFPなし条件よりも大きな培養塊・スフェロイドが形成された。マウス線維芽細胞株(NIH/3T3)細胞ではDFPありではDFPなし条件よりも優位に多くのスフェロイドが形成され、キンギョ線維芽細胞(CAF)細胞ではDFPありで飲みスフェロイドが形成されることから、メダカDFPはスフェロイド形成に非常に有用であることが示唆された。これらスフェロイドを組織学的に検索したところ、DFP周辺に培養細胞塊が形成されており、ウェスタンプロットによりMAPKの発現も確認できた。</p> <p>以上の結果からメダカDFPは様々な細胞のスフェロイド培養形成の担体として利用でき、組織学的、生化学的検索に使用できることを初めて明らかにした。よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	令和6年11月28日	最終試験日	令和6年11月28日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和6年12月19日

報告番号 甲	第536号	氏名	草場 香那
審査員	主査(自署)	香取 桂子	
	副査(自署)	吉田 祐樹	
	副査(自署)	副島 葉伸	
論文題名	<p>題名 Targeting oxidative phosphorylation with a novel thiophene carboxamide increases the efficacy of imatinib against leukemic stem cells in chronic myeloid leukemia 新規化合物チオフェンカルボキサミドで酸化的リン酸化を標的とすると、慢性骨髓性白血病における白血病幹細胞に対するイマチニブの有効性が上がる</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一覧、発行西暦年 International Journal of Molecular Sciences, 25巻20号, 11093頁, 2024年</p>		
論文審査結果の要旨	<p>本研究の目的はNK-128がOXPHOSを標的としたCML-LSCを介するCMLへの治療効果の検証である。</p> <p>慢性骨髓性白血病(CML)患者はチロシンキナーゼ阻害剤(TKI)治療に反応を示すが、CML白血病幹細胞(LSC)はBCR::ABLキナーゼ活性に依存しない増殖経路を有し、TKIへの感受性が乏しいため再発を来す。従って、CML-LSCを特異的に標的とする新規治療戦略が求められる。そこで著者は新規化合物NK-128(C33H61NO5S)に着目し、治療薬としての有効性を解析した。</p> <p>CML細胞株にNK-128を添加して増殖能を評価した。次に、CML異種移植マウスモデルを用いてin vitroでの結果をin vivoで検証した。さらに患者検体を用いてNK-128の抗腫瘍効果を評価した。その結果、NK-128はCML細胞株の増殖を有意に抑制することが示された。また、CML異種移植マウスモデルにおいて、イマチニブとの併用は、いずれか単剤投与に比べて有意な抗腫瘍効果を有することが明らかとなった。未治療CML患者骨髄から分離したCD34+CML細胞のコロニー形成もNK-128により抑制されることが判明した。</p> <p>以上の成果は、CML-LSCにおけるOXPHOSを標的とする治療法の有効性に関して新たな知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において各審査委員より専門的な観点から論文内容、および関連する事項について種々の質問を行ったが、いずれも適切な回答を得た。</p> <p>よって審査員合議の上、大学院医学研究科は博士課程の採取試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	令和6年12月19日	最終試験日	令和6年12月19日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和 7 年 2 月 5 日

報告番号 甲	第 537 号	氏名	窪 津 祥 仁
審査員		主査(自署)	三浦 信 一
		副査(自署)	中西 実 義
		副査(自署)	高木 伸 勝
論文題名	<p>題名 FIB-4 Index and Liver Stiffness Measurement are Potential Predictors of Atherosclerosis in Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, in press, 2024 Sep 4. Online ahead of print</p>		
論文審査 結果の 要旨	<p>代謝機能異常関連脂肪性肝疾患(MASLD)患者は、肥満、耐糖能異常、脂質異常症といった動脈硬化促進因子を背景に有することから、心血管疾患(CVD)が重要な死因の一つである。そのため、CVDサーバランスは重要であるが、方法については十分に確立されていない。本論文では、MASLD患者における肝線維化と頸動脈アテローム性動脈硬化症、冠動脈狭窄の関連を検討している。</p> <p>対象は、頸動脈超音波検査を受けた MASLD 患者 153 人である。頸動脈アテローム性動脈硬化の評価としてプラーカーを含む最大内中膜複合体厚(Max-IMT)を超音波で測定した。肝線維化の評価としては、FibroScan による肝硬度(liver stiffness measurement: LSM)及び脂肪肝評価(controlled attenuation parameter: CAP)と肝線維化予測式である FIB-4 index を算出した。更に Max-IMT が 1.1mm 以上の患者を対象として冠動脈狭窄を検出するために冠動脈 CT を行った。</p> <p>結果、Max-IMT の中央値は 1.3mm で 63 例 (41.2%) が 1.5mm 以上であった。FIB-4 index および LSM は、それぞれ Max-IMT と有意に相関した (<math>p=0.356</math>, <math>p&lt;0.001</math>, <math>p=0.25</math>, <math>p=0.002</math>)。また、LSM は、年齢とは無関係に Max-IMT 1.5mm 以上と有意に関連していた。冠動脈狭窄に関しては、FIB-4 index 及び LSM が高い患者ほど中等度または重度の冠動脈狭窄を認め、特に LSM の高い例で重度冠動脈病変を多く認めた。</p> <p>結論として、肝線維化パラメーターは、頸動脈アテローム性動脈硬化症および冠動脈狭窄と関連しており、肝線維化の評価は、MASLD 患者における有意なアテローム性動脈硬化症および冠動脈狭窄を同定するのに有用と考えられた。</p> <p>以上の結果は、MASLD 患者の予後規定因子として重要な位置を占める CVD のスクリーニング、サーバランス及び治療戦略において新しい知見を加えてものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験 の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査 の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査 日	令和 7 年 2 月 4 日	最終試験日	令和 7 年 2 月 4 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和7年2月28日

報告番号 甲	第538号	氏名	山田 麻里江
審査員	主査(自署) 坂口 嘉郎		
	副査(自署) 川口 真		
	副査(自署) <i>佐々木</i> -EP		
論文題名	<p>題名 Immune cell kinetics after allogeneic red blood cell transfusion in patients undergoing cardiovascular surgery</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 TRANSFUSION CLINIQUE ET BIOLOGIQUE, Volume 31, Issue 4, Pages 223-228, November 2024</p>		
論文審査結果の要旨	<p>同種輸血が免疫応答を低下させ、患者の転帰に影響することが報告されているが、同種赤血球輸血が免疫細胞の構成をどのように変化させるかは十分解明なされていない。本研究では、心臓血管外科手術の周術期に同種赤血球を輸血した患者の宿主免疫細胞の構成がどのように変化するかを解析することを目的とした。</p> <p>対象として非輸血患者 8人、自己血輸血患者 22人、同種赤血球輸血患者 36人の3群について、手術時間、出血量、入院期間を比較した。また、手術前、約1週間後、1か月後における白血球数、リンパ球数、さらにフローサイトメトリーによるリンパ球サブセットの推移を比較した。</p> <p>輸血群は非輸血群と比較し、有意に手術時間、入院期間が長く、出血量が多くかった。自己血輸血群と同種赤血球輸血群の比較では、同種赤血球輸血群のみが入院期間が長かった。また、術前と術後1週間、1か月の検体を比較したところ、同種赤血球輸血群のみで、術後1週間のリンパ球数が術前と比べて有意に減少した。CD4+細胞、CD20+細胞、NK細胞数の推移では自己血輸血群と同種赤血球輸血群でほとんど差がなかったが、CD8+細胞数は同種輸血群のみで術後1週間の値は術前に比べて有意に減少した。同種赤血球輸血は免疫細胞組成に影響し、特にCD8+細胞の減少への影響が強いことが示唆された。</p> <p>以上の成績は、同種赤血球輸血が免疫細胞の構成に及ぼす影響について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="checkbox"/> 不合格 <input type="checkbox"/>	最終試験の結果	合格 <input checked="" type="checkbox"/> 不合格 <input type="checkbox"/>
論文審査日	令和7年2月28日	最終試験日	令和7年2月28日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和7年2月10日

報告番号 甲	第539号	氏名	木村 俊一郎		
審査員		主査(自署)	木村 俊一郎		
		副査(自署)	佐藤 亮介		
		副査(自署)	甲斐 勝一		
論文題名	<p>題名 Effect of skin-capsular distance on controlled attenuation parameter for diagnosing liver steatosis in patients with nonalcoholic fatty liver disease</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Scientific reports 11:15641 2021</p>				
論文審査結果の要旨	<p>非侵襲的に肝脂肪化・線維化を定量する検査法として普及しつつある FibroScan では、肝内伝播する超音波の振幅減衰に準ずる測定値である controlled attenuation parameter (CAP) によって、肝脂肪化を定量的に評価するとされている。しかし、肥満例では皮膚肝表距離(skin-capsular distance: SCD)の個体差が大きく定量結果に影響を与える可能性が無視できないと考えられるため、本論文では SCD 自体が CAP 値に与える影響を検討した。対象は当院で肝生検で NAFLD と診断され、M プローブの適応を超えない 113 例のデータを用いて解析した。単回帰分析あるいは重回帰分析の結果、SCD は CAP と独立して組織学的脂肪肝と関連する因子であることが判明した。多変量解析では調整 CAP 値を求めるために 2 種類の計算式を作成した：調整 CAP (dB/m)=CAP-(5.26xSCD)、調整 CAP8dB/m)=CAP-(5.35xSCD)-(25.77x 血清 Alb)。脂肪肝診断のための AUC は調整 CAP 値が 0.678 と 0.684 であり、未調整 CAP に基づく 0.621 より有意に大きかった。結論として FibroScan における脂肪肝評価には SCD を考慮に入れる必要があると考えられた。</p> <p>以上の成績は、FibroScan における脂肪肝判定に関して新たな知見を加えたものであり、意義あるものと考えられた。</p> <p>よって本論文は、博多(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不合格	最終試験の結果	合格	不合格
論文審査日	令和7年2月10日		最終試験日	令和7年2月10日	
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。				

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和 7年 2月 5日

報告番号 甲	第 540 号	氏 名	ZHAO WENLI
審 査 員	主 査 (自署)	趙文力	
	副 査 (自署)	副島英伸	
	副 査 (自署)	木内洋三郎	
論文題名	<p>題名 HSPA8 Single-Nucleotide Polymorphism Is Associated with Serum HSC70 Concentration and Carotid Artery Atherosclerosis in Nonalcoholic Fatty Liver Disease</p> <p>雑誌名、巻 (号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 Genes (Basel). 13, 1265, 2022.</p>		
論文審査結果の要旨	<p>非アルコール性脂肪肝疾患 (NAFLD) は心血管疾患 (CVD) と関連が深いが、その遺伝的リスク因子は未解明である。本研究では、HSPA8 遺伝子の一塩基多型 (SNP: rs2236659) と頸動脈アテローム硬化症、血清 HSC70 濃度、および肝病理所見との関連を検討した。</p> <p>佐賀大学病院で肝生検を受けた 123 名の NAFLD 患者を対象に、HSPA8 遺伝子型、血清 HSC70 濃度、頸動脈の最大内膜-中膜厚 (Max-IMT)、肝病理所見を解析。その結果、A/G または G/G 型の患者は A/A 型よりも血清 HSC70 濃度が低く、男性において Max-IMT が有意に高かった。一方で、肝線維化との関連は認められなかった。</p> <p>決定木分析では、<math>\text{Max-IMT} \geq 1.5\text{mm}</math> のリスク因子として「年齢 (65 歳以上)」「肝線維化」「性別 (男性)」「HSPA8 の SNP (A/G または G/G)」が同定された。特に、65 歳以上の男性で A/G または G/G 型を持つ患者は動脈硬化の進行リスクが最も高かった。</p> <p>以上の成果は、HSPA8 遺伝子の SNP が NAFLD 患者の血清 HSC70 濃度低下と動脈硬化進行に関連することを示し、個別化医療の可能性を示唆する重要な知見である。本研究は、非アルコール性脂肪肝疾患 (NAFLD) は心血管疾患 (CVD) との関連に関して新たな知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>	最終試験の結果	合格 <input checked="" type="radio"/> 不合格 <input type="radio"/>
論文審査日	令和 7年 2月 5日	最終試験日	令和 7年 2月 5日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

## 学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

令和 7年 2月 3日

報告番号 甲	第 5-41 号	氏名	前田 佐知子
審査員	主査(自署) 吉田 裕樹		
	副査(自署) 副島 茜仲		
	副査(自署) 江口 幸宏		
論文題名	<p>題名 Analysis of CD1a-positive monocyte-derived cells in the regional lymph nodes of patients with gallbladder cancer</p> <p>雑誌名、巻(号のみの雑誌は号)、頁一頁、発行西暦年 International Journal of Molecular Sciences, 25巻, 12763頁, 2024年,</p>		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、ヒト単球由来樹状細胞のマーカーとして知られる CD1a 陽性樹状細胞の、胆嚢癌所属リンパ節浸潤と、臨床病理学的因素との関連を調べたものである。</p> <p>これによると、CD1a 陽性樹状細胞の所属リンパ節への浸潤が多い症例は、少ない症例に比べて有意に生存期間が短く、またその全例でリンパ節転移を認めた。リンパ節転移陽性例においてサブグループ解析を行ったところ、所属リンパ節への CD1a 陽性樹状細胞浸潤と生存期間に有意な関連は認めなかったが、原発腫瘍への CD1a 陽性樹状細胞浸潤は生存期間と有意な関連を認めた。</p> <p>これらのデータは、CD1a 陽性樹状細胞が腫瘍近傍で単球から分化するという説を支持していると考えられた。さまざまな固形癌において CD1a 陽性細胞の所属リンパ節浸潤に関して相反する結果が報告されており、CD1a 陽性細胞浸潤の意味は癌腫によって異なる可能性も示されている。以上の成績は、ヒト胆管癌における CD1a 陽性細胞浸潤の所属リンパ節への意義について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	令和 7年 2月 3日	最終試験日	令和 7年 2月 3日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		